

〈編集部だより〉

○色即是空 空即是色

色とはカタチのあるモノをいう。分りやすくここでは、たとえば紙巻きタバコをさすこととする。タバコを吸うと直ちにカタチのないケムリに化す。これを色即是空という。その過程で空ナルケムリは直ちにカタチノアル私をヨミガエラセル。これを空即是色という。喫煙は仏教の原点たる、般若の知恵を実践せしめる最も簡便にして容易な方法であり、小生はその修行に毎日イソシンでいるのである。(T. K)

○去年は、今後絶対に忘れる事のない大きな出来事が二つあった。

それは、私の住んでいる横浜と似ていて大好きな街、神戸の大震災と、心ない団体の犯した許されざる一連の事件である。

「コウベノミナサンゴメンナサイ」昨秋プロ野球日本シリーズで、MVPに輝いた外国人の一言だ。私のみならずヤクルトファン以外は皆オリックスを応援した。その後も、様々な事が報道され、人の心の荒廃により日本の将来を憂いがちであるが、しかし被災地へ駆け付けたボランティアの若者達や、小さな子供の貴重な義援金、もう一つの事件で不幸にも一家が犠牲になった合同葬儀で、式が終わっても、尚駅まで続いていた参列者姿を見て、決して今後も悲観することはないと思います。

そんな日本の国土の環境保全に一生懸命力を注いでいますので、これからご愛読をお願いします。(Y. I)

○自然や文化といった質に対する国民の期待は、年々高まりつつあるように感じる。従前では、川づくりにおいて天然記念物や貴重種などいわゆる特定種をマークして計画していれば内容のある計画として通用していたように思う。今は、それだけでは欠陥商品のように指弾を受けてしまい、川のもっている自然的な価値、とりわけ多様な生態系を重視した計画が求められているからである。

出張のおり、車窓から川をよく眺めることがあり、山間部を流れる川の多くは、清流で緑豊かな自然が多い。一方、人口が集中している都市の河川は、大河川は緑が多く河川らしく目に写るが、小河川や水路はコンクリートで固められた水路が目に入り、私的な土地利用が優先され、川が苛められ可哀想になあと心に思う。洪水から人々の生活を守ることから、どうしても土地利用、経済性などから生物には厳しい川になっているのが実情である。

川づくりの計画の検討をやっている、多様な生態系を考えれば、土、木、石といった自然の素材を多く採用するこ

とが重要であろうが、我が国の川は、一般に急流であり、川の条件から採用には限界もあり、多様な生態系を取り入れた川づくりについて自信をもってこれですと残念ながら私には言えるものがない。計画の中身について自然と人との狭間を左にいたり、右にいたり悩みながら収斂しているように思う。(Y. N)

○河川は水辺と緑を合わせ持つ貴重な空間として認識され、特に動植物の生息地、住民の憩いの場としての環境の整備に対する社会的ニーズも高まり、質の高い多様化した機能を持つ整備が求められ、全国各地に多くの「環境施設」が完成している。

また今後は、余暇時間の増大や本格的な高齢化社会の到達などにより、豊かな自然と触れ合い、美しい景観を見ることが出来る河川空間の利用志向は一層高まるものと予想される。

今まで、治水計画と工事しか担当したことなかった私にとって、当センターで得られた知識や、学識経験者等による検討会や研究会などによる指導、助言は、脳細胞を刺激する新鮮な衝撃でもあった。

その衝撃を元に地域特性を考慮し、河川、景観、生物、都市計画、水質、教育等専門分野の意見を取り入れると、地域の自然、歴史、慣習、風景等を土台にした、個性ある河川整備が必要である。

川は自然公物であり、施設整備にあたってはこの点に十分配慮することが重要であるが、現状では社会的、時代的要請もあり難しい面があることも、また事実である。今行われている整備では、「川らしさ」、「地域らしさ」、「川らしいデザイン」など河川の本来あるべき姿を認識した例はまだ少なく、遊園地化されたり安全対策上の問題を持ったものも多い。

また一方で、河川は流域から成り立っている。個性ある河川を作り上げるためには、流域にまで目を向け、さらには、人の考え方にまで踏み込んで、川を慈しむ人の心を取り戻す必要があるように感じられる。

これからの河川整備には、河川の担当者だけでなく、失われつつある人々の自然を慈しむ心を取り戻すため、地域の人々との交流や、子供を含めた教育の必要性を痛感している。(S. S)